

寝屋川廃プラ公害訴訟

原告団・弁護団ニュース

地を這うように住宅街へ廃プラ有毒ガス

夜間、特にニオイがきつい

各界からのエール

東京大学大学院教授
(自然環境学)
山室 真澄

予防原則に則る判断を



廃プラ公害病が発生したと聞き、10年ぶりにふるさと寝屋川を訪ねました。閑静な住宅街が突如、公害病の現場に変わる現実を、直視すべきだと思いました。行政は憲法25条で保障された健康で文化的な生活ができるように努めるべきだと思います。EU(欧州連合)のように予防原則に則り、化学物質汚染で苦しむことの無い国にしていくことが、今こそ求められていると痛感します。

詳しくはパンフレットをご覧ください
配布員が持っています

廃プラ工場からの排出ガスの流れを想定する実験

平成20年12月20日早朝



廃プラ施設からの排出ガスは目に見えないので、代わりに焚き火の煙で流れの様子を調べてみた。煙は接地逆転層の中を地を這うように住宅地に到達する。

**住宅地の近くに
廃プラ処理施設は非常識**

この廃プラ処理施設の稼動以前から、杉並病などで廃プラ公害の発生は充分予測された。柳沢幸雄東大教授は、法廷において、このような気象や地理的条件のもとで、住宅地の近くに廃プラ施設を設けることは言語道断であり、住民の差止め要求を無視して施設建設を強行した行政の責任は重大であると証言している。

西川榮一 神戸商船大名誉教授 意見書

接地逆転層

北生駒山系のふもとの小高い丘陵に挟まれた打上川沿いの窪地に2つの廃プラ処理工場が立地。その丘陵地斜面から上部にかけて住宅地が展開しており、川沿いに罹病者が集中して発生しています(第3号ニュースの地図参照)。排出ガスが住宅地に到達するかどうかについて、西川榮一神戸商船大名誉教授が、煙の実験や温度測定による気流の調査結果や地形について意見書を提出されました。要点を紹介します。

2つの廃プラ工場が立地する窪地では風が弱く、夜間を中心に年中、接地逆転層が形成されている。これは日没とともに昼間と違って地面が冷え、地

表付近の気温が下がり、空気層の対流が起こらなくなり空気が淀む現象である。

この接地逆転層に廃プラ処理工場からの有毒ガスが排出されると、ガスの拡散が抑えられ地を這うように住宅地へ到達する。逆に、風の強い日には大気は攪拌され有毒ガスも薄められるので、住宅地でのニオイもあまり感じられなくなることは逆の証左でもある。

写真の右奥に写っているのは寝屋川市の清掃工場の高い煙突から出る煙で、接地逆転層よりもずっと高い所に放出されるので上方に拡散して行く。

接地逆転層が形成されやすく 排出ガスが拡散しにくい地形



公害患者からあなたへ
シリーズ ④

畑中宅の布団干し場と洗濯物干場
廃プラガスに汚染された外気に少しでも触れないようにカバーをしている



布団干し場



洗濯物干場

私は昭和48年から現在の所に住んでおり、平成3年ごろから夜に1時間ほど数人で住宅横のグラウンドを散歩しています。廃プラ施設の操業が始まってから、散歩途中で洗剤のような異臭が風について来るようになりました。余りに強烈になったときには中断して家に帰ります。その時は市の環境政策課に二オイのことを連絡していますが、平成22年正月から1ヶ月半で7回も電話しています。

症状

子ども時代、愛媛県の製紙工場近くに住んでいて気管支喘息といわれたことがあります。ここに来てからは長年発作も出ていません。

しかし平成18年末ごろから、顔面がかゆくなる、唇がぴりぴりする、眼の中がコロコロし時々チカッと何かに刺されたような痛みが走り、咳も出だしました。平成19年になると口内がいがらっぽく味覚が鈍くなり、頭痛もし、全身に湿疹ができました。この3年ぐらいは、化学物

施設排出ガスとの因果関係 明確に認定

畑中ちづるさん 59歳 女性

寝屋川市高宮あさひ丘在住

「脳神経系まで悪くなった」「トシエック

質に過敏になり、入浴時に石鹸を使うこともできません。
過日、高野山に行くことがあり、寝屋川を2日間離れましたが、その時はこのような症状が消えました。

宮田先生に診てもらって

(宮田医師 化学物質過敏症の権威・北里大学名誉教授)

今年6月、東京の宮田先生に診察してもらいましたが、脳神経系まで悪くなっている事がわかりショックを受けました。空気清浄機を買い足し、十種の薬を飲みながら気力で毎日過ごししていますが、益々敏感になる身体はこの地では維持できなくなっています。

畑中さんの診断書

裁判所に提出済み

診断書①

真鍋・内田医師と原田小松病院院長による診断書から

▼患者 畑中ちづるさん 女性

▼主訴 喘息増悪、湿疹、臭いに過敏

▼現病歴 平成21年4月23日、内田クリニック受診。3年前より咳出現。夜に咳が多い。喘息発作出ることあり。2年前より夏に湿疹が出る。去年より体幹、四肢に湿疹出現。臭いに過敏になった。

▼鑑別診断について ともとアレルギー体質あり、気管支喘息の既往もあった。しかし30年間以上喘息発作がなかったのに3年前からの咳の増悪、喘息発作の出現、臭いにたいする過敏反応がでてきている。

▼診断 環境因子、とくに臭い、化学物質の影響による喘息の悪化、臭いに対する過敏反応が強く疑われる。

診断書② 宮田医師

▼症例⑦ 氏名 畑中ちづる殿(女)

▼診断名 中枢神経機能障害、自律神経失調、化学物質過敏症

▼発症時期 平成18年ごろより。

▼所見 神経学的検査では明瞭な自律神経失調と平衡機能障害が検出されました。

科学にもとづく公正な裁判を求める高裁あて署名にご協力下さい